

優秀賞

人と自然

札幌市立山鼻中学校 三年 朝倉 章介

僕の住んでいる地域には藻岩山という山があります。僕は小学生のころその山に学年全員で小さな木を植えました。それから何年か経った昨年の冬に僕は友人とスキーをするために藻岩山に行きました。そして小学生のころに植えた小さな木のある場所の近くを何気なくすべるとあのころよりも成長した小さな木がありました。その周囲の木と比べると、かなり小さいのですが、その成長した小さな木を見ると僕は少し感動しました。そして僕はその木が今よりも大きく力強く成長してくれたらいいなと思いました。

それから半年がすぎた今、そのような小さなことでもいいので、これからそういうような感動を経験する人が少しでも増えてくれればいいなと考えています。そうすれば日本の森林も増えて、地球の環境も良くなると思います。しかし日本では昔から人々のくらしを支えてきた木造の家や家具など木を使用したものが多くあるので、やはり木を切らないというわけにはいかないのも木を切らないようにするのではなく、木を切ったら木を植えるということをしなればいけないと思います。だから、これからはそういったことを重ねていくという習慣をつけるようにしなければいけないと思います。

優秀賞

割り箸と地球環境

苫小牧市立光洋中学校 二年 後藤 一総

ぼくは、緑について調べてみようと思いました。どんな事について調べるか迷っていたところ、昼食でラーメン屋さんに行つて、割り箸を見て思いました。「割り箸って木の無駄使いじゃないか。木が少なくなると、きれいな空気が少なくならないか。森林にいる動物や昆虫などの生態系を破壊してしまうのでないか。」そう考えたので、調べてみる事にしました。

日本で使われている、割り箸の九割以上が中国で作られ、日本へ輸入されている。割り箸製造のため木を伐採する事が、環境破壊につながるのではないかと長く議論されてきた様だ。中国では最近、木製割り箸の他に、竹製割り箸の生産が急速に伸びている。木製は森林を伐採しなくてはならないが、竹製は手間がかからず、成長する竹から作られている。竹は、伐採しないと増えすぎ、成長が悪くなってしまう。このように、竹製の割り箸の製造は、中国の森林環境にとってはむしろ良いようだ。また、中国の水の少ない地域では、箸などはきちんと洗えず、伝染病の原因になっていた。このような地域では、割り箸は必要であると思った。

割り箸は、中国産の割り箸の他に、国産のものもある。国産の物は、一膳の単価が中国産の二・五倍くらいの値段だ。しかし、間伐材などを有効利用して、作られている。間伐材とは、スギやヒノキの人工林で、木の生長に合わせて間引きした材木の事を言う。スギやヒノキは、周囲に空間があると枝を横に広げながら生長するので、これをしなければ木の生長がにぶり、良い森林にならないのである。

このように、わざわざ割り箸のために、伐採しているのではないと知り、安心した。また、この国産割り箸の袋に広告を付けて、スポンサー会社からの広告費を製造費にあてると言う運動もある。

間伐材は、割り箸以外にも様々な場所で使用されている。例えば、建築現場での足場や養殖漁業用のイカダなどだ。しかし、現在では鉄やプラスチックなどに代わり、間伐材の需用が落ちている。それにより、木材価格が下がり生産が取れなくなり、間伐が行われない人工林が増えている。人工林の木は、成長過程でCO₂を吸収するため、森がCO₂を吸収することになる。そうしたことから本当は森を維持しながら生長した木を伐採し、新しい苗を植えると言う流れが重要になってくる。現在、日本の森林の四割が間伐などの手入れが必要な人工林である。また、森林面積の約五八パーセントは私有林であるが、個人経営者も減り、多くは森林組合で整備をしている。しかし、国からの補助金が充分でないので、木が放置されていたり、打ち捨てられていたりとの問題も生じている。こんな事ではいつまでたっても森林環境は良くなるまいだろう。しかし、林野庁では、人工林の多くが間伐期を迎えていることから、「地球温暖化防止森林吸収源十カ年対策」において、間伐の遅れた森林を集中的に解消し、健全で多面的な機能を発揮する森林を育成するため、二〇〇五年度から三年間で約九〇万ヘクタールの森林を計画的に整備する「間伐等推進三カ年対策」を実施している。とにかく、荒れている人工林を救える様だ。他にも森林活動を積極的に行う団体なども出てきている。

こうやって調べてみて、今まで考えもしなかつた事が、割り箸一本から色々な事がわかつた。人間環境と森林環境はつながっている。他にもぼくの知らないたくさんの方が、人間環境につながっているのではないかなと思う。普段よく使い、よく耳にする「地球環境」や「リサイクル」と言う言葉の意味が少しわかつた様な気がした。